

製品名: RKIP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17215**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	PEBP1
別名	PEBP1; PBP; PEBP; Phosphatidylethanolamine-binding protein 1; PEBP-1; HCNPpp; Neuropolypeptide h3; Prostatic-binding protein; Raf kinase inhibitor protein; RKIP
遺伝子 ID	5037.0
SwissProt ID	P30086
免疫原	抗血清はヒト PEBP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 105-154

背景

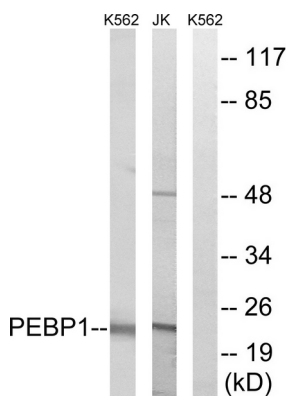
この遺伝子は、ホスファチジルエタノールアミン結合タンパク質ファミリーのメンバーをコードし、MAP キナーゼ (MAPK)、NF-

kB、グリコーゲン合成酵素キナーゼ-3 (GSK-3) シグナル伝達経路を含む複数のシグナル伝達経路を調節することが示されています。コードされたタンパク質はさらに処理されて、神経発達に関与している可能性のある、より小さな切断産物である海馬コリン作動性神経刺激ペプチド (HCNP) を形成します。この遺伝子は多くのヒト癌に関与しており、転移抑制遺伝子として作用する可能性があります。この遺伝子の複数の偽遺伝子がゲノム上で同定されています。[RefSeq 提供、2015年7月]、疾患: ストマチンは、過水和型遺伝性有口赤血球症 (OHS) で欠乏します。これは、凍結水球症または遺伝性有口赤血球症としても知られています。OHSは、溶血性貧血を伴う赤血球異常を引き起こす。Na(+)/K(+)透過性亢進により、細胞容積制御障害が生じる。OHSの根底にある分子異常の性質は不明である。機能: ATP、オピオイド、ホスファチジルエタノールアミンと結合する。ホスファチジルイノシトールおよびホスファチジルコリンに対する親和性は低い。セリンプロテアーゼ阻害剤で、トロンピン、ニューロプシン、キモトリプシンを阻害するが、トリプシン、組織型プラスミノゲン活性化因子、エラスターゼは阻害しない。機能: HCNPは、中枢神経系のシナプス前コリン作動性ニューロンの機能に関与している可能性がある。HCNPはコリンアセチルトランスフェラーゼの産生を増加させるが、アセチルコリンエステラーゼの産生は増加させない。特定の受容体を介していると思われる。機能: 陽イオンコンダクタンスを調節すると考えられている。ACCN1およびACCN3のゲーティングを制御する可能性がある。類似性: バンド7/mec-2ファミリーに属する。類似性: ホスファチジルエタノールアミン結合タンパク質ファミリーに属する。細胞内局在: 膜の細胞質表面に露出している。脂質ラフトと関連している。主に細胞膜突起部およびゴルジ体由来小胞を呈する核近傍領域に集中している。アクチンと共局在する。質量分析により、ステージIからステージIVまでのメラノソーム分画で同定されている。サブユニット: 9~12個のモノマーを含むホモオリゴマー。ACCN1、ACCN2、およびACCN3と相互作用する(類似性による)。LANCL1と相互作用する。サブユニット: Raf-1と相互作用し、それを阻害すると考えられる。組織特異性: 広く発現している。

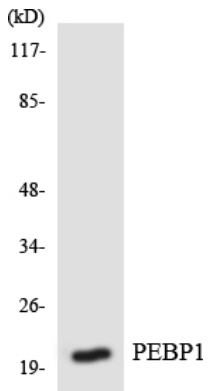
研究分野

免疫学

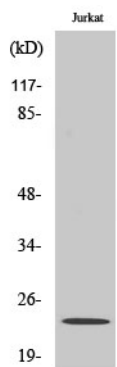
画像データ



PEBP1抗体を用いたJurkat細胞およびK562細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PEBP1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



RKIP ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析